



富山市PTA連絡協議会広報紙 第102号

市議会との懇談会／市教委との懇談会  
東海北陸大会報告／日P富山大会告知  
…4P

第3回評議員会・  
PTA会長研修会  
…1P

特集

子どもたちのための「学校の働き方改革」

2.3P

# 第3回評議員会・PTA会長研修会

令和2年2月23日(日)午後1時よりホテルグランテラス富山にて、第3回評議員会、引き続き午後2時よりPTA会長研修会を開催致しました。評議員会では、諸規定の一部改正や会長の改選について審議を行い承認をいただきました。PTA会長研修会では、まず第1部として、日本PTA全国研究大会兵庫大会 実行委員長 西家幸男様を講師としてお招きし、「日本PTA全国研究大会兵庫大会を終えて」というテーマでご講演をいただきました。第2部ではパネルディスカッションを行いました。前半は、富山市教育

委員会 教育長 宮口克志様、富山市立新庄中学校 校長 塩刈裕之様、富山市立南部中学校 PTA 会長 大澤恒寛様、富山市立蛸川小学校 PTA 会長 中井啓之様をパネリストとして、「学校の働き方改革」をテーマに、また後半は、宮口克志様、富山市立芝園小学校 校長 武島浩様、富山県PTA連合会 前会長 水谷千万夫様、富山市PTA連絡協議会 会長 古川尊久をパネリストとし、「PTAのあり方、PTA会長の心構え」をテーマに、様々な立場から率直なご意見をいただきました。





富山市立五福小学校 PTA会長 泉 賢志

今年度、五福小学校PTA会長として、PTAの活動理念でもある「子どもたちの教育環境を整える活動」を行いつつ、新たに「教職員の教育環境を整える活動」を理念に加え2020年度に向けて、PTA活動の方向性を教職員や地域の皆様と協議してまいりました。

ここ数年でよく耳にするようになりました教職員の多忙化、働き方改革という言葉がありますが、いま私たちの大切な子どもたちを通わせている教育現場では変革の時を迎えています。2020年度より小学校では新たに外国語教育の教科化やプログラミング教育が追加される事もあり、今年度も教育の現場では移行期間として様々な準備に迫られ、先生方の負担が増えました。

教職員の労働時間と賃金については保護者の皆様にはぜひ知っていただきたいと思っています。月の平均残業時間が8時間程度だった50年以上前に制定された教員給与特別措置法(給特法)が今も変わらず使われており、先生方は過労死ラインと言われる80時間を超える残業を強いられても、月給の4%にあたる賃金で働いていらっしゃいます。保護者の皆さんは月給に対する4%で80時間を働けますか?これが私たちの大切な子どもを通わせている教育現場の過酷な実情です。

大変な時代だからこそP(保護者)とT(教職員)、そしてC(地域)がワンチームとなり、前年踏襲で行事を進めるのではなく、家庭教育、学校教育そして地域教育がある中で、誰が何を子どもたちに教えるべきなのかを本音で話し合い、そして、先生と子どもたちが笑顔で過ごし学べる教育環境を作り上げるため、P(保護者)とC(地域)が、教職員に1番で近くで寄り添うスクールサポーターになるべきだと思います。

#### 五福小学校PTAとしての教職員の多忙化解消の取り組み

- ・各委員会の担当教職員の廃止
- ・卒業積立金の分割集金から一括集金への変更
- ・土日に行うPTA行事・地域行事への教職員の参加を任意とした
- ・交通安全自転車教室の準備・運営を学校主体から保護者、地域連携事業へ移行



富山県教職員組合 執行委員長 能澤 英樹

学校にはさまざまな要望が寄せられます。「勉強をしっかりと教えてほしい」「宿題をたくさん出してほしい」「友達と仲良くすごせるように見守ってほしい」「行事の中で思い出をつくってほしい」「部

活動をしっかりとやってほしい」など多岐に渡ります。職員室の中にも「研修をしっかりとやろう」「生徒指導に力を入れよう」「学力を向上させよう」「行事や部活動で子どもを育てよう」と様々な思いや主張があります。文部科学省も教育委員会も次々と「子どものため」の施策を学校に下ろします。また、地域や関係団体も、祭り、大会、コンクール等、様々なイベントへの参加を学校に依頼します。これらは、どれも「子どものため」であり、学校に「やらない」という選択肢はありません。

学校内外のあらゆる「子どものため」を成立させるためには教員が長時間労働で対応するしかありません。問題は、この反作用が子どもたちに向かっていることです。

ある調査で、教員の悩みとしてトップになったのが「授業の準備をする時間がない」ことです。授業の質が落ちると分らない子が増えます。しかし、多忙を極める今の状態では、分からない子に手を差し伸べる余裕がありません。

また、私たちの調査では、富山県内の小中学校で「過労死ライン」と言われる月80時間以上の残業をする教員は40%以上になります。残業が多いと生活時間が圧迫され、睡眠時間が確保しづらくなります。多忙に加えて睡眠が十分でない状態では、子どもたちの出すサインに敏感に対応するのは難しいです。県内ではいじめや暴力の件数は増えており、その対応に追われ多忙が加速するという悪循環です。

そして、最大の問題は、教員志願者が減っていることです。現在も県内の小中学校の数十校で教員が足りず、授業がままならない状態です。被害者はもちろん子どもたちです。

「子どもたちのため」と取り組んできたことが、子どもたちのためになっていない現実にもまず目を向けなければいけません。幸い、貴紙のように特集を組んでくださったり、県PTA連合会の大会でも教員の多忙の問題を取り上げてくださったりしていることは強い追い風です。

学校教育、家庭教育、社会教育がそれぞれの役割を発揮することで子どもたちにもっとよい教育環境を作れるはずですよ。そのためにも、今、保護者、地域、行政、学校が膝を突き合わせて話し合う場が必要です。



富山県教育委員会 教育長 宮口 克志

現在、学校現場は新学習指導要領への対応やいじめ・不登校など生徒指導面での対応、次々と教育現場に持ち込まれる多くの業務を抱えて、時間外勤務が増加する中、一方で、教員の働き方改革が求められております。

学校行事や会議の精選、業務の効率化など、時間外勤務の縮減が働き方改革であるかのように受け取られがちです。しかし、働き方改革の本質的なねらいは、時間外勤務の縮減などによって生み出された時間を活用して、子どもたちと向き合う時間を確保することや、教員が自らの授業力を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすること、つまりは、教員がやりがいを感じられるような職場づくりであるという視点を忘れてはならないと考えています。

成長過程にある子どもたちは、日々悩み、トラブルも多いものです。いじめやトラブルが起きた際には、教員は休憩時間や放課後などを活用して子どもたちと真摯に向き合い、ときには同僚や先輩の援助も受けながら、子どもたちが一つ一つ壁を乗り越えていけるよう支援し、その成長していく姿に安堵と喜びを感じます。

学習や様々な技能の習得に向けては、失敗したり挫折したりしながらも懸命に努力する子どもたちに寄り添い、子どもたちの「わかった」「できた」という達成感や満足感をクラスみんなで共有し、喜びを分かち合います。

教員にとっては、こうした日々の教育活動の中で、子どもたちの笑顔や成長する姿が何よりのやりがいにつながり、子どもたちの一層の成長のために努力していくとするエネルギーとなります。

そこで、富山県教育委員会では、学校の働き方改革を推進していくために、ICT化による様々な業務の効率化や、研修の精選と体系化など、実効性のある業務改善を推進し、教員の資質向上と子どもと向き合う時間の確保に向けて支援してまいります。


併せて、子どもたちの確かな成長のため、学校を応援していただいている保護者や地域の力をこれまで以上に結集し、社会全体で学校を応援する気運をより一層高めていけたらと願っております。



特集

## 子どもたちのための「学校の働き方改革」

先生がイキイキと働き、子どもたちがイキイキと学ぶ、そんな教育環境こそが「子どもたちのため」になるのではないのでしょうか。学校の働き方改革とは何か?保護者として何ができるのか?どのような関わり方がよいのか?もう一度考えてみましょう。




富山県PTA連合会 顧問 水谷 千万夫

教員の多忙化が止まりません。多様な要因からの教員不足・年々増す保護者への個別対応・相変わらず減らない持ち込み行事・過熱する部活動指導…。我が子を成長させてくれる学校への感謝を思う親の一人として、教員の勤務時間が過労死ラインを超えている現状、授業準備や児童生徒に接する時間が足りない教員が増加している問題に、目を背けずにはいられないのです。

そもそも、「教育」というのは、学校が全ての責任を負うものなのでしょうか?

日本国憲法には、「すべての国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う」と明記されています。つまり、大人すべてが、子どもたちのために教育に関与しなくてはならないと説いてあります。(第26条2項)また、教育基本法には、子どもたちへの教育とは、学校教育・家庭教育・社会教育から構成され、学校・家庭・社会(地域)の連携が重要であると明記されています。(第10条・13条)

現状はそうとは言えません。本来家庭や地域が行うべき子どもの基本的な生活習慣の育成等の面で、教員に過度な期待が寄せられます。教員に対して一定の目に見える教育成果をあげることを求める傾向が強まり、度を超える評価を科せられる場合もあります。真摯に取り組む教員の勤務時間は増える一方です。また、新学習指導要領やカリキュラム増など、学校に丸投げの施策は少ないとは言えません。家庭教育や社会教育を、学校に押し付けている実情は拭えません。

我々PTA会員は早く全員が気付くべきと感じます。教員の多忙化は、子どもたちが教員と触れ合い学ぶ機会を剥奪しているのです。子どもたちが、いきいきのびのび活躍し自己肯定感にあふれ、学んだことを活かして将来を「生きぬく力」をもつことを誰もが祈っているはず。教員が疲弊した環境や、大人が責任を果たさない環境では実現する可能性はゼロに等しいでしょう。このことは、教員の方々にも深く考えていただきたいと思っています。教員の方々への強い思いを今こそ我々に伝える時期ではないかと感じます。

この記事を読んで頂いたPTA会員にお願いします。単位PTA・富山市P連・富山県P連、それぞれの立場でできることを考えてみませんか?一つ一つの取り組みが教員の多忙化解消につながり、子どもたちのために直結します。今回の特集記事が、「子どもたちのための教員の働き方改革」を推し進める起爆剤となるよう、切に願います。

## 富山市教育委員会との懇談会

10月16日(水)午後6時00分より、富山市地域交流センターにて令和元年度富山市教育委員会との懇談会を開催致しました。

富山市教育委員会(市教委)からは宮口克志教育長をはじめ、各担当課から11名の方にご出席いただきました。

懇談会は3つの分科会に分かれ、「学力向上」「食育・健康」「教育環境」に関してそれぞれ質疑や意見交換を行いました。また、3つの分科会ではメインテーマの他に「働き方改革」を共通のテーマとしていました。市教委から現在の取組みや考え方をお聞きし、PTAとしても思いを伝えて意見交換することができ、非常に有意義な懇談会となりました。



## 富山市議会議員との懇談会

9月27日(金)午後6時30分より電気ビルレストラン県民会館店にて、富山市議会議員21名と市P連役員21名が参加して懇談会を開催致しました。

市P連からは、6月23日に開催された会長情報交換会での話題から学校やPTAの実情をお伝えし、教育行政のチェック機構として議会を通して現場の声をぜひ行政へ届けていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



## 日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会

10月18日(金)、19日(土)に開催された日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会に富山市P連の役員と一般会員から参加者を募って、参加してきました。

初日の分科会では、富山市立芝園小学校PTA代表の前澤会長・四谷副会長が取り組みを発表されました。子ども110番の家の再生や地域との連携・マップ作りの大変さや苦勞を共有できとても勉強になりました。



# 第68回日本PTA全国研究大会富山大会



令和2年8月28日(金)～29日(土)

8/28(金) 分科会(10会場)

8/29(土) 全体会・東海北陸ブロック大会

大会スローガン **キトキト みんなで とやまなび**  
～こころが今日も笑顔でありますように～

2019年度  
広報委員会

- |            |            |           |            |            |            |            |              |           |            |            |            |            |              |           |            |             |                |               |                |                |                |                |
|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|-------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 赤塚 亮一(新保小) | 金岡 浩之(附属小) | 山崎 翼(音川小) | 山崎 泰一(速星小) | 伊藤 貴洋(杉原小) | 中田 政洋(船舩小) | 長谷川 新(四方小) | 設楽 静香(水橋西部小) | 松本 寛(広田小) | 畠山 精介(老田小) | 高田ゆかり(寒江小) | 長木 勇太(福沢小) | 高原麻由美(月岡小) | 仁歩 貴一(山室中部小) | 信濃 誠(岩瀬小) | 安宅 千春(針原小) | 坂井 直之(堀川南小) | 副会長 佐伯 真未(豊田小) | 副会長 林 洋一(芝園小) | 参与 高柳恵理子(富山市P) | 副委員長 石吾 厚(速星中) | 副委員長 関澤 亮(倉垣小) | 委員長 青山 和也(堀川中) |
|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|-------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|